

2016 年度活動報告 CJP 授業：表現法 A～C

阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

阿部 秀夫（関西学院大学日本語教育センター）

福富 奈美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業では、日本語能力試験 N1～N3 相当の表現が理解できるようになることを目標としている¹⁾。表現法 A はレベル 4 以上、B はレベル 3～6、C はレベル 2～4 の学生が履修可能である。全クラスが同一曜日・時限に開講されるため、初回授業を前半と後半に分けて実施することで、学生がクラスを見学したうえで自分に合うクラスを履修できるようにした。履修者は表現法 A が 16 名、B が 17 名、C が 28 名であった。テキストは『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』『同 N2』『同 N3』を使用した。

2. 授業内容

全クラス、1 コマで 1 課は進むという進度で統一した。実際には、1 コマでは進度が遅いが、2 課進むと下のレベルの学生には負担が大きすぎる。そのため、1 課進んで時間が残った場合に、後半の文法項目を扱うこととし、宿題やクイズ、試験の対象とするのは 1 コマ 1 課で進む範囲のみとした。表現法 A では典型的な例文や使える状況を考える指導、B では全員で短文作成を行ってから練習問題に入るという流れでの指導、C では例文を多く提示する指導を行った。履修者の多さに対応するため、表現法 A では課題提出をすべて本学の LUNA（教員－学生間の学習支援システム）を利用し、B は提出用のファイルを用意することで、課題のやりとりにかかる時間を短縮した。

3. 成果と今後の課題

学期末アンケートを見ると、全クラス満足度は高かったが、表現法 A と C で「どちらでもない、あまり満足していない」を選択した学生が数名いた。レベルが上／下の学生にとって、進度が遅い／速いと感じたことが満足度をやや下げることに繋がったものと思われる。初回到クラス見学を実施したが、進度や課題の負担はわかりづらかったようである。そのため、特に表現法 C を履修したレベル 2 の学生から負担が大きいの意見があった。今後は履修説明で、履修可能なレベルでも下のレベルの学生が履修すれば負担が大きいのことを伝え、納得した上で履修できるように改善したい。

1) 表現法 A は N1、表現法 B は N2、表現法 C は N3 の表現を学ぶクラスである。